

2014 – 2018

Mitsuishi Kenta



# Mitsuishi Kenta

三ツ石 健太

**Nationality:** Japan

**DoB:** 1993/10/30

**Age:** 24

**Email:** air1030key@gmail.com

**Phone:** 090 9923 3214

**Likes:** billiards

## Education

2014-2018

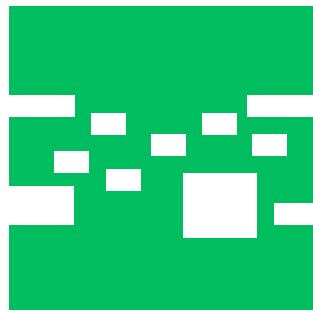
Tokyo University of science

Faculty of Engineering

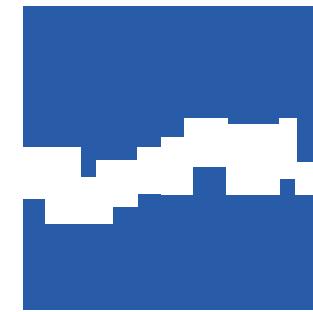
Department of Architecture

## Skill

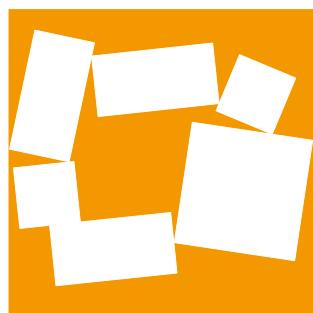




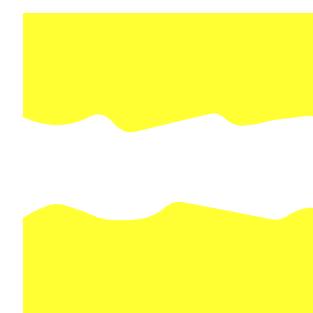
Omotesando gradient  
5-17



Le musee limite  
19-31

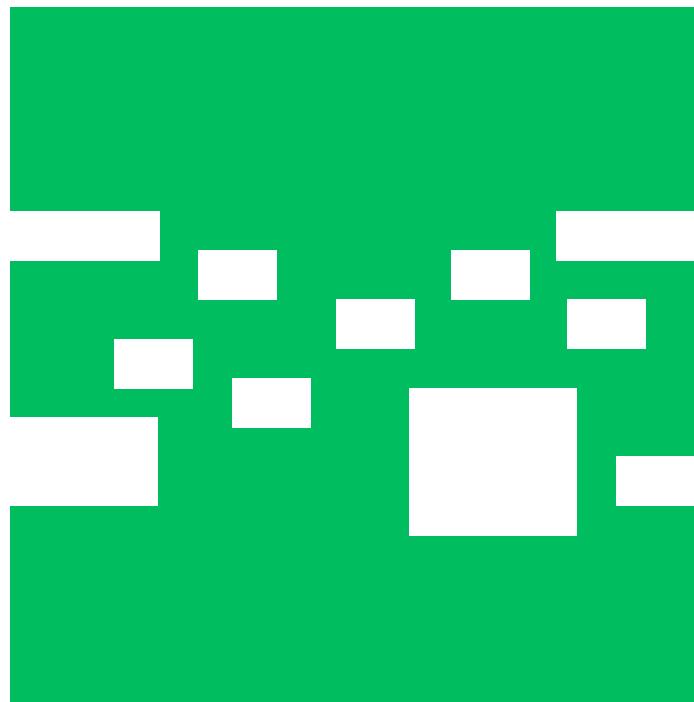


House<sup>3</sup>  
33-43

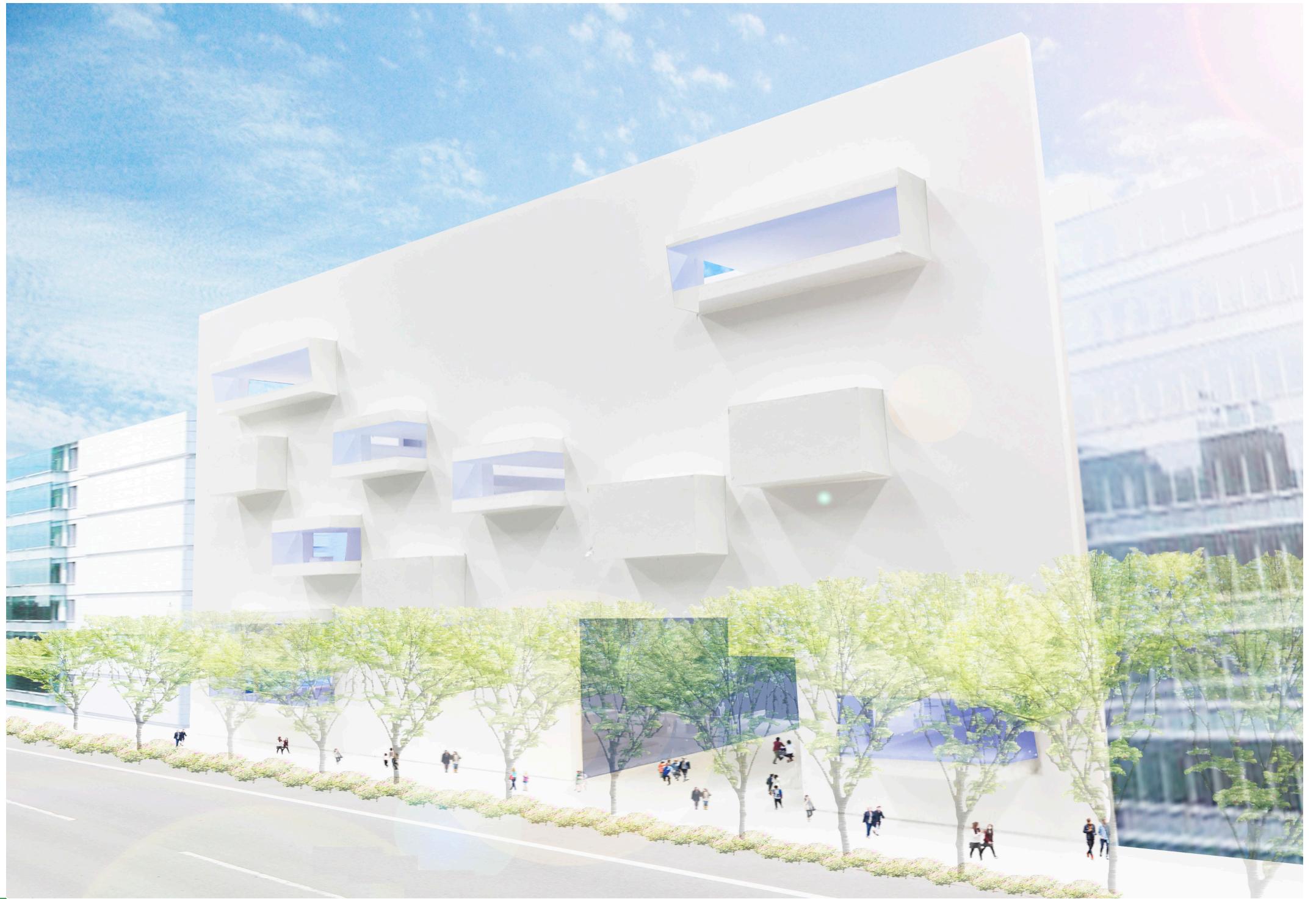


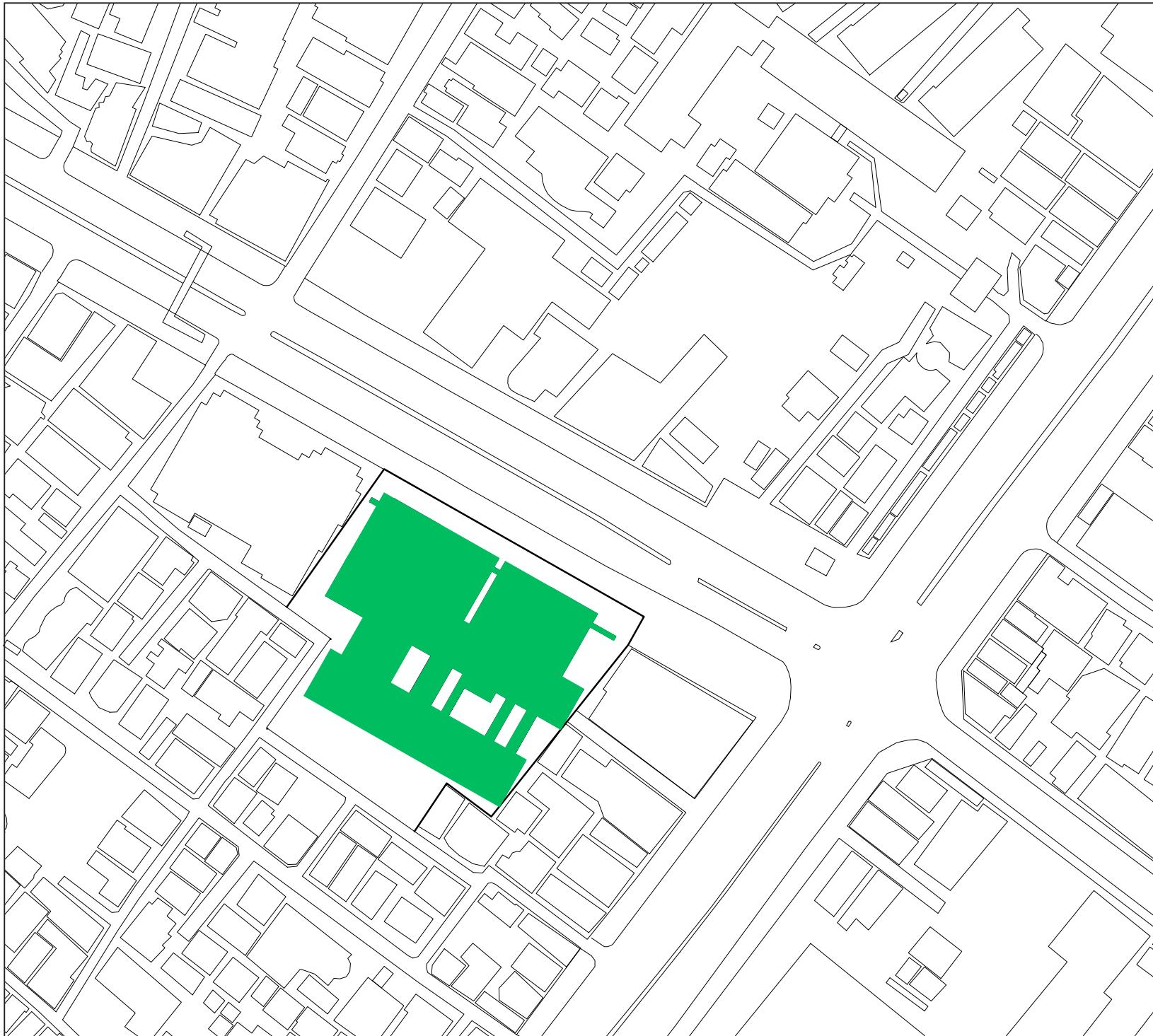
Kanamachi alley  
45-55





Omotesndo gradient

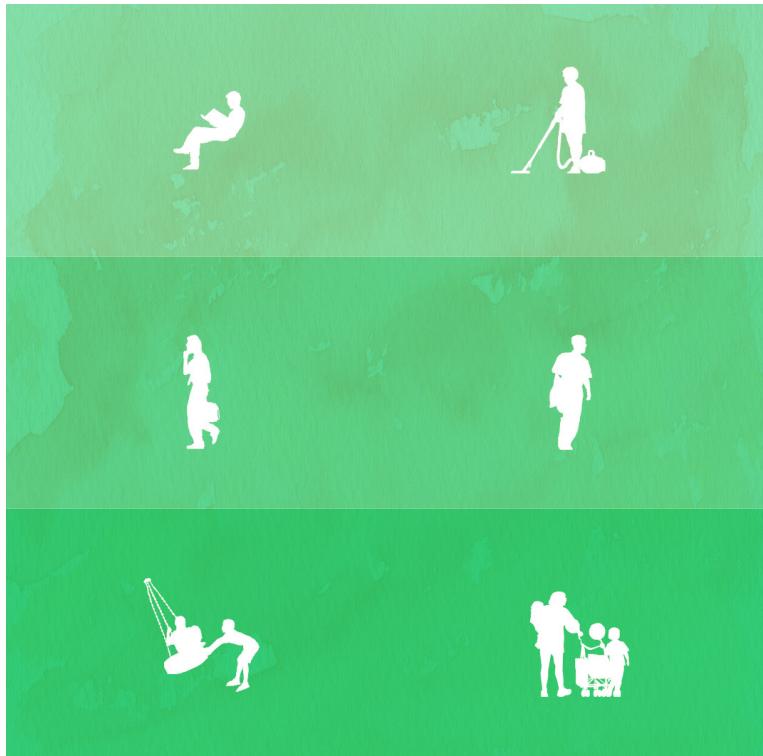




## Placedata

Address: Tokyoto Minatoku  
Kitaaoyama 3-6

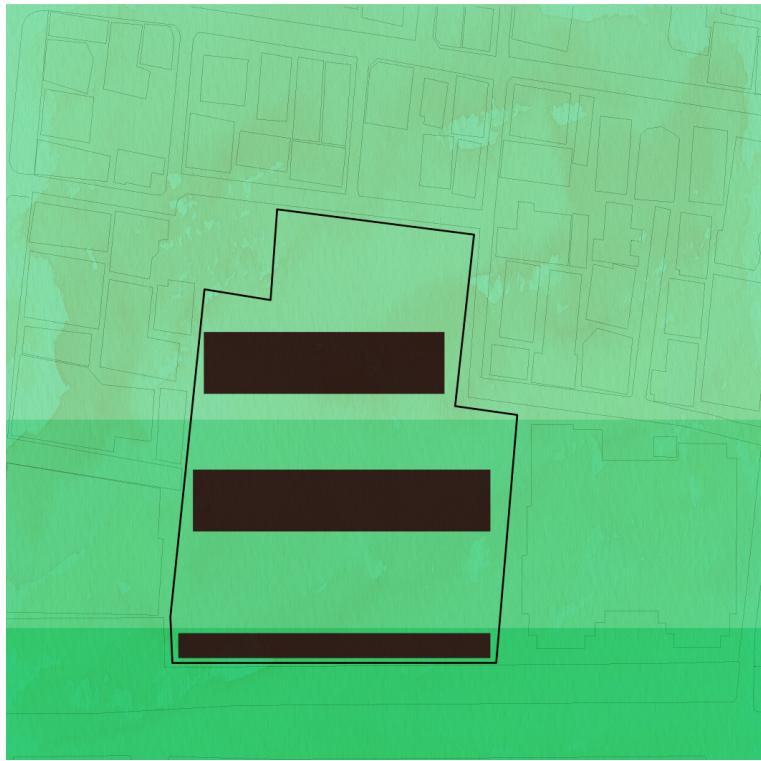
表参道は1919年（大正8年）に明治神宮の参道として整備された大通りが「表参道」そのものであるが、現在ではその通りを中心とする原宿・青山地区の町域を指して表参道と称することも一般的である。町域としての表参道には渋谷区神宮前と港区北青山・南青山が含まれ、銀座と並んで高級ブランドの旗艦店が集積しているエリアとしても知られる。また「表参道」を少し裏にはいると、周辺の建物の高さは下がり、住居や小さな飲食店が立ち並ぶ街になる。自分はこの様々な顔を持つ街を「表参道」を中心とした「働く」「遊ぶ」「暮らす」のグラデーションとして考えた、今回の敷地はそのグラデーションをまたぐように配置されている。なのでこの設計では「表参道」の移ろいを感じつつ、新たなる何かを生み出す空間としてのオフィス、そしてそれに付属する、ホテルを設計した。



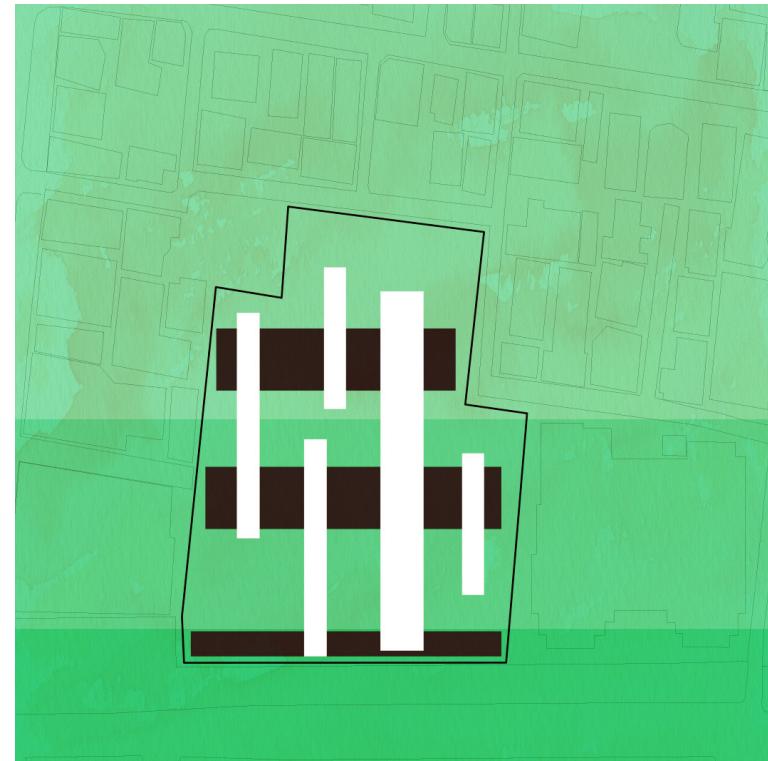
暮らす、働く、遊ぶ。



それぞれのカラーを敷地に当てはめる。

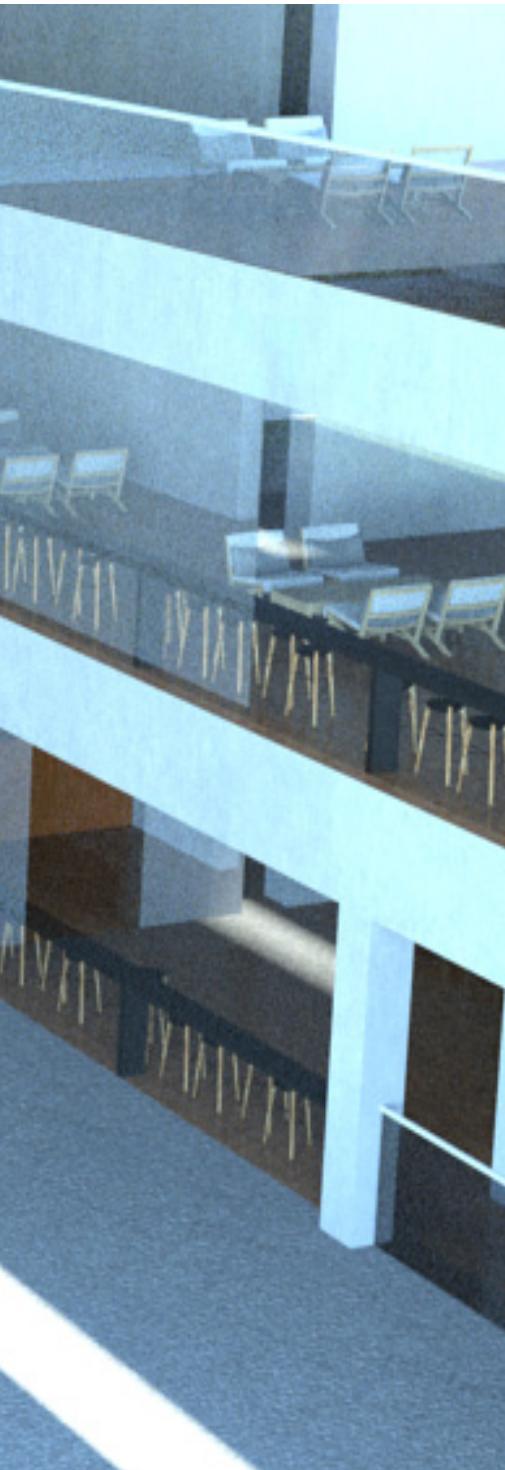


境界を壁で分ける。



筒でつなげる。

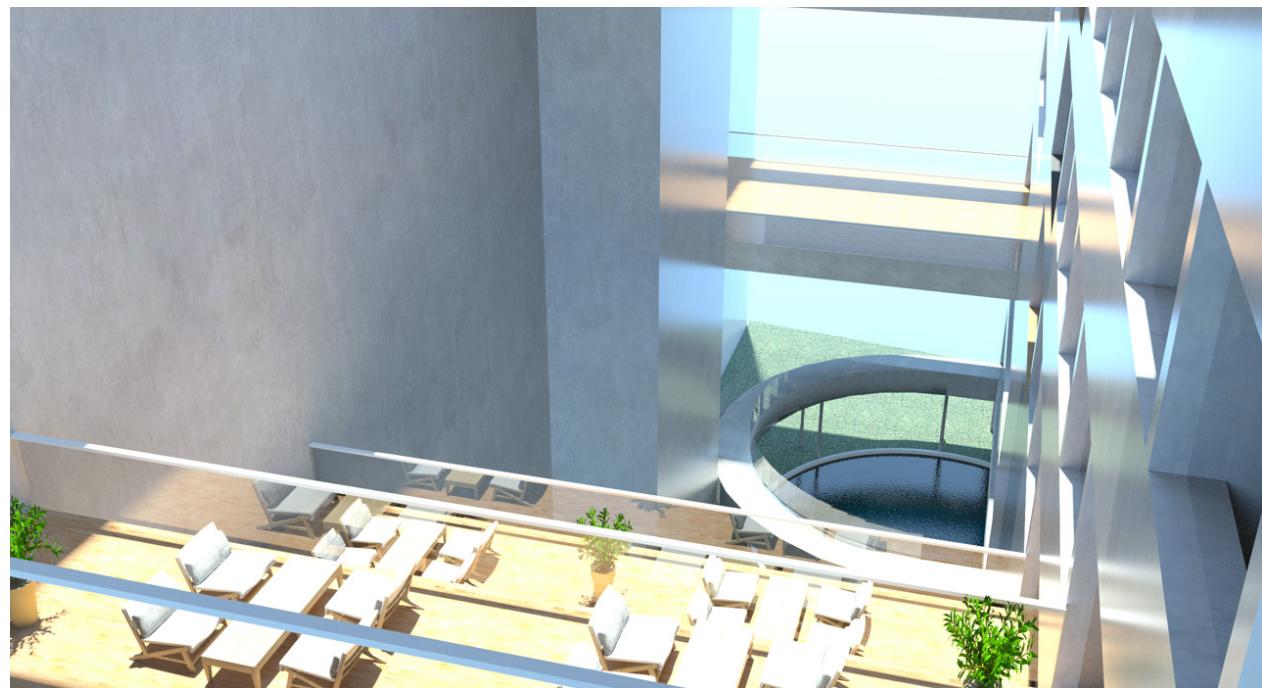
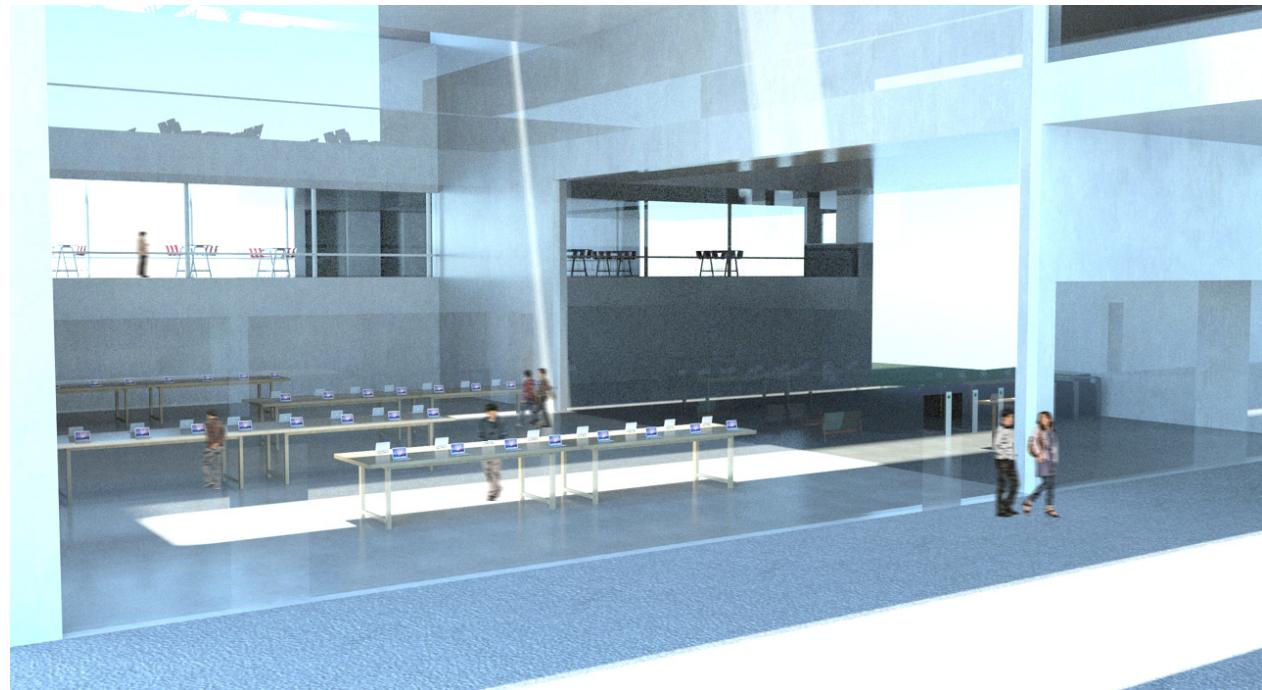




## 表と裏をつなげる道

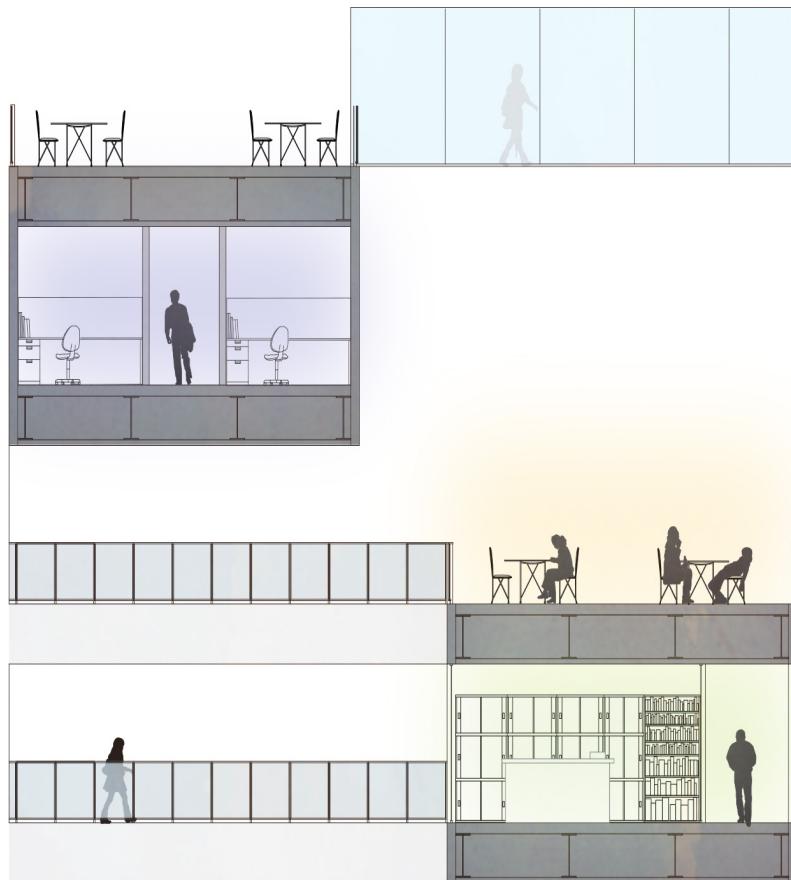
三つの壁の地上部分に大きな穴を開けそれをすべて開口としてつなげることによって、表参道から住宅街へとつながる一つの通りを作った。この通りは表参道から住宅街へのグラデーションのあるきながら体感できる。また通りはガラスに覆われているか、完全外部になっているのでそれぞれの壁をくぐる度、ちがった色をそれぞれ体感できるようになっている。





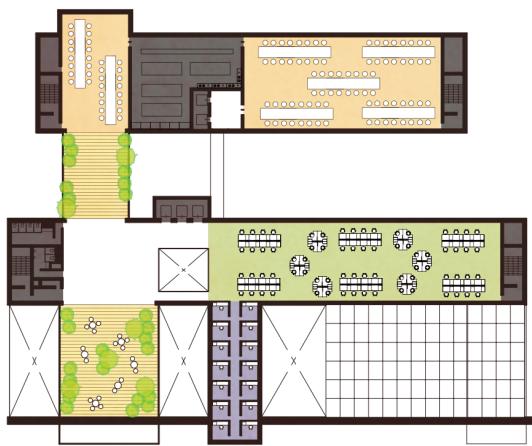
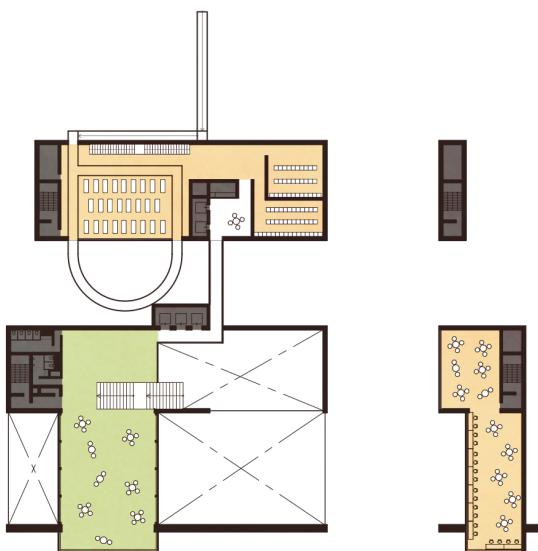
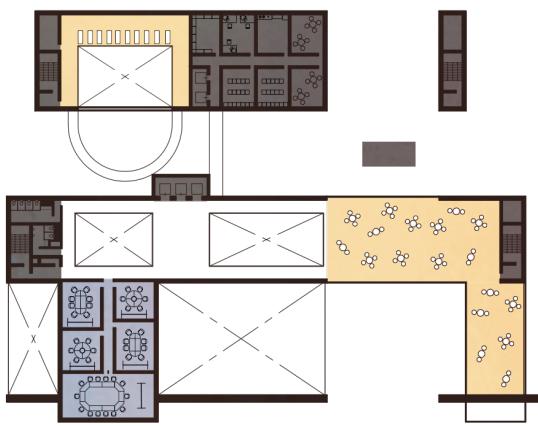


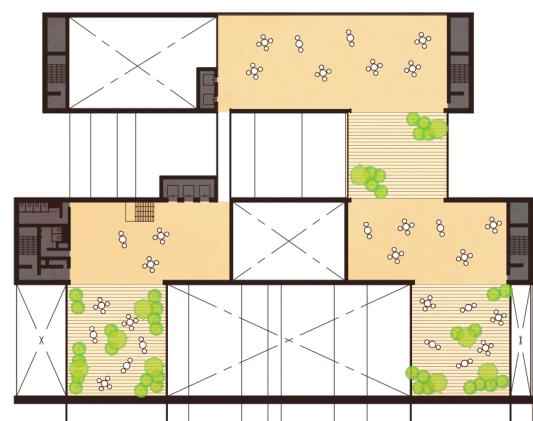
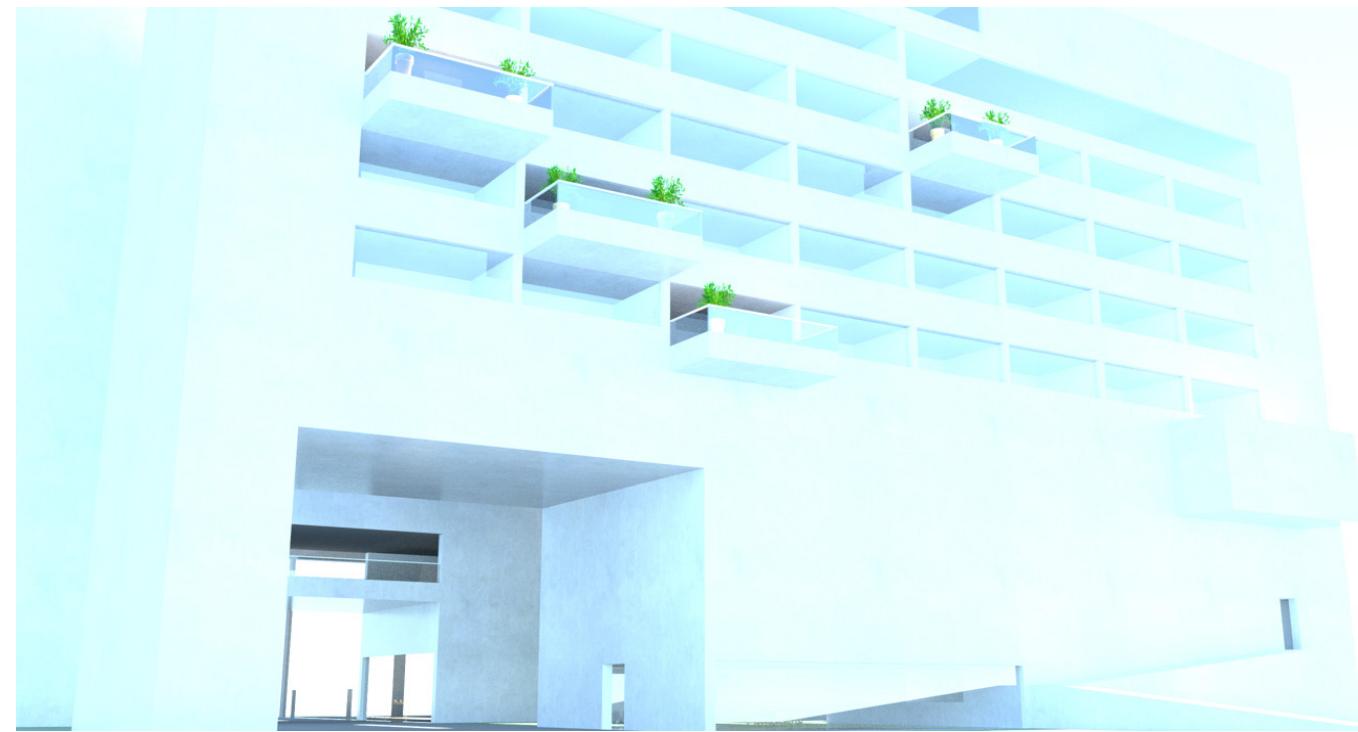




オフィスと壁の間は巨大なアトリウムとなっており、オフィスからスラブを伸ばすことによってアトリウムの中にオフィスの空間を作り上げた。オフィスの空間には三種類あり、完全に開かれた休憩などができる空間、ガラスの壁によって閉じられているが視界などが抜ける透明なフリーオフィスとして使えるような空間、そして完全に閉じられており個別作業や会議などを行う空間となっている。このアトリウムの中に開かれた空間が立体的に存在することによって、その空間同士でのコミュニケーションが生まれ、新たな何かが生まれる空間とした。また完全に閉じられた空間も存在することによってこのアトリウム空間にアクセントが生まれ、このアトリウム全体に空間としての豊かさを生み出した。











Le musée limite

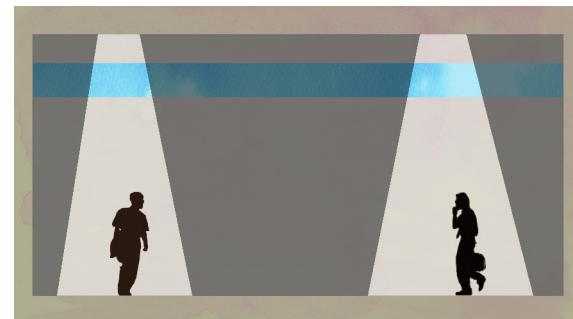




### Placedata

Name: Mizumoto park  
Address: Tokyoto Katsushikaku  
Mizumotokouen 3-2  
Lot area: 933,509m<sup>2</sup>  
Floor area ratio: 30%  
Building coverage: 60%  
Maximum height: 60m  
Total floor area: 2000m<sup>2</sup>

テーマとして「境界に立つ」を持った今回の課題では、街と公園を人工的と自然的といった概念に分け、それぞれのもつ「暗い」と「明るい」と言ったイメージで表し、高低差を用いることでそれを表現した。  
また公園全体を横断するように立て、街、自然部分、湾岸部、河の境界を表した



公園と都市

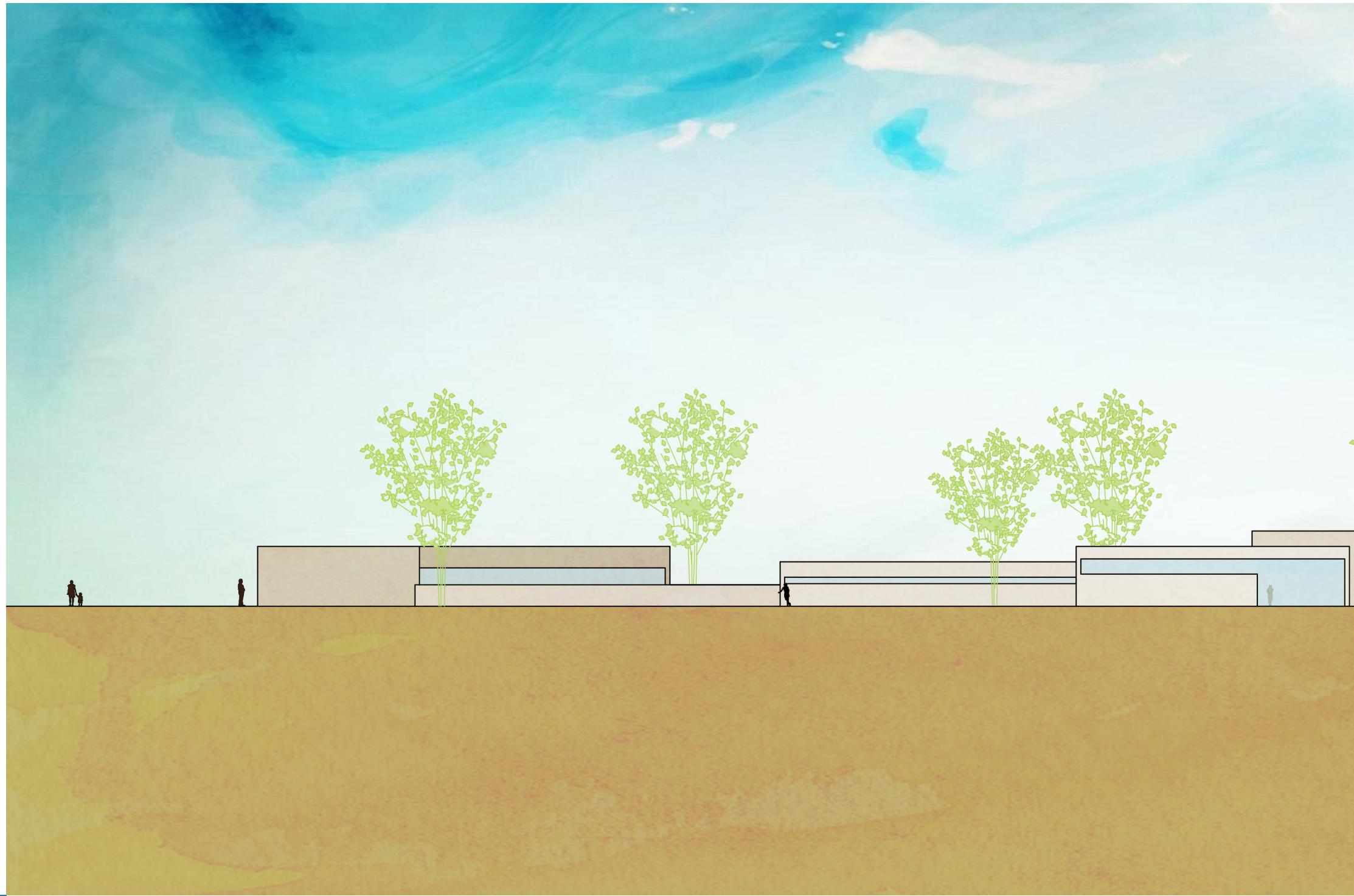
公園は明るく、都市は暗い

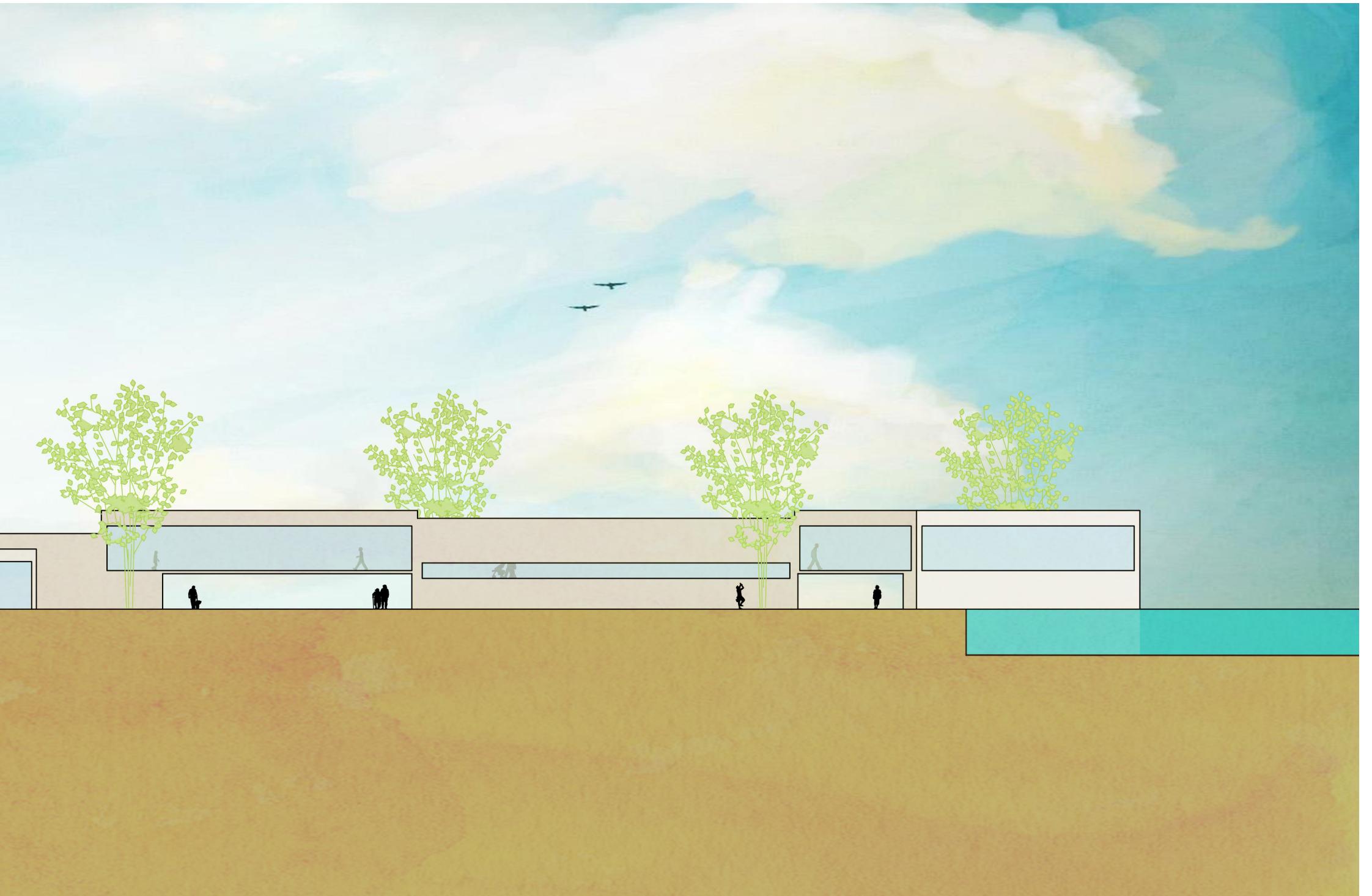


繋げる

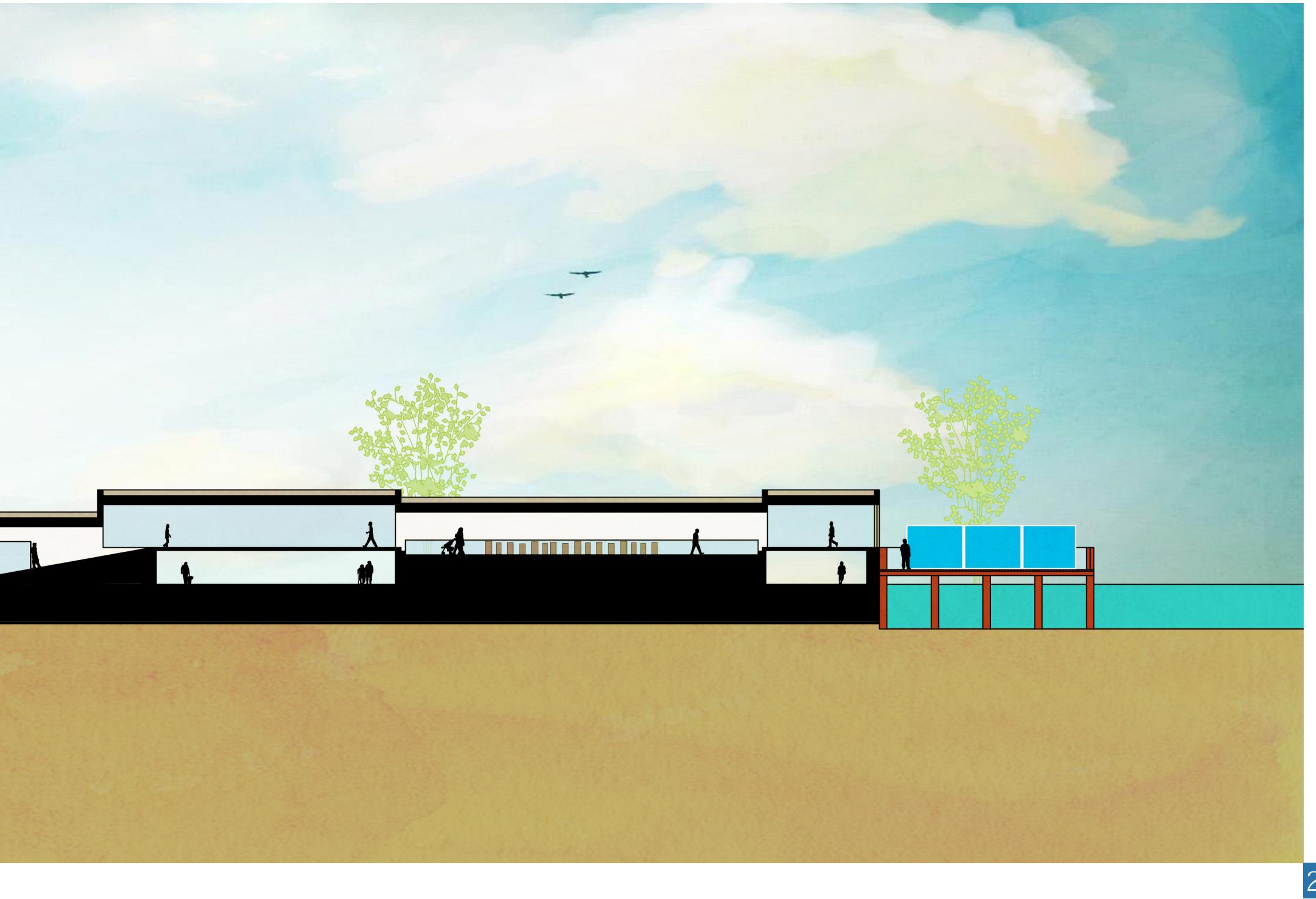


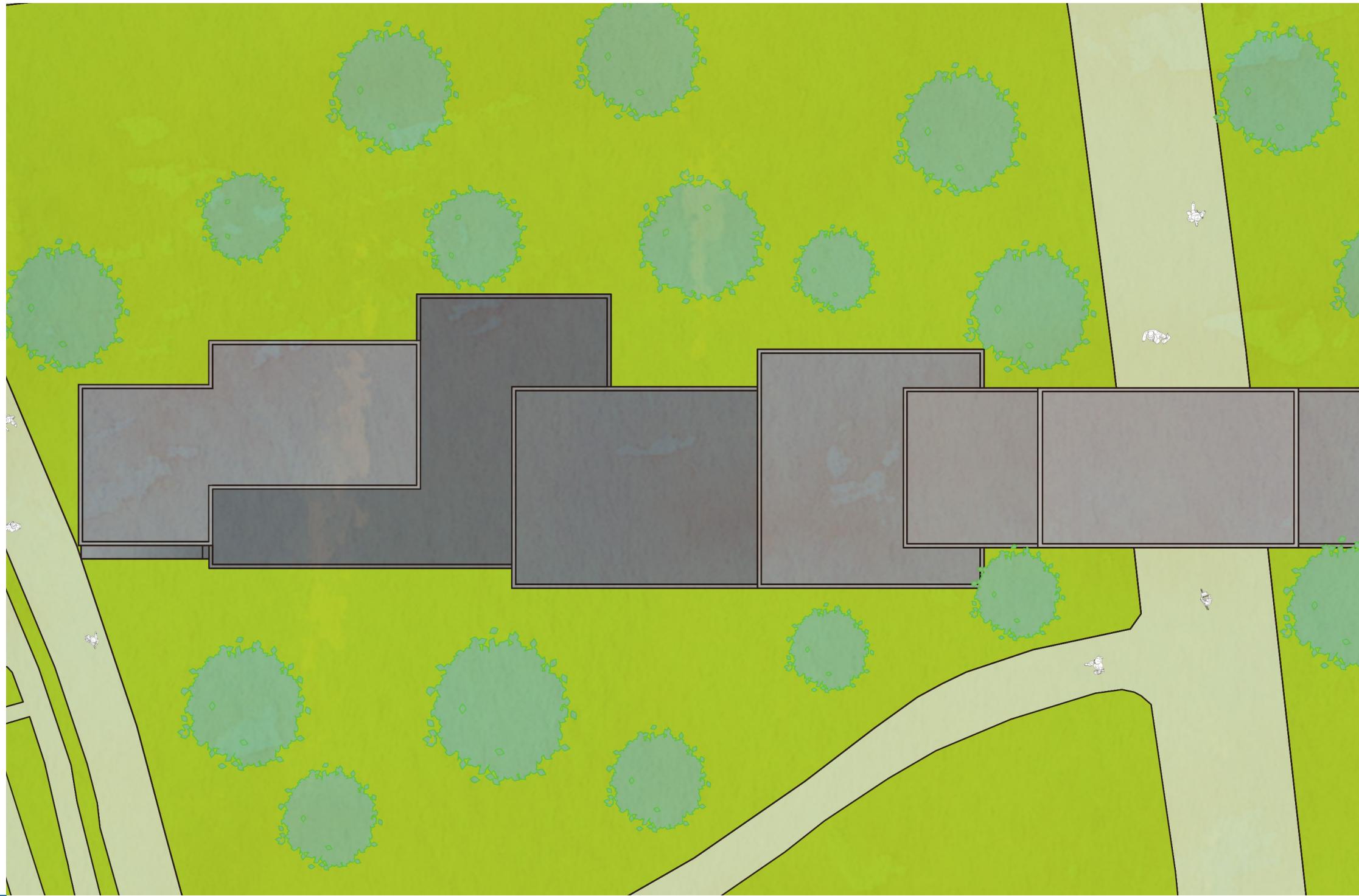
ずらす

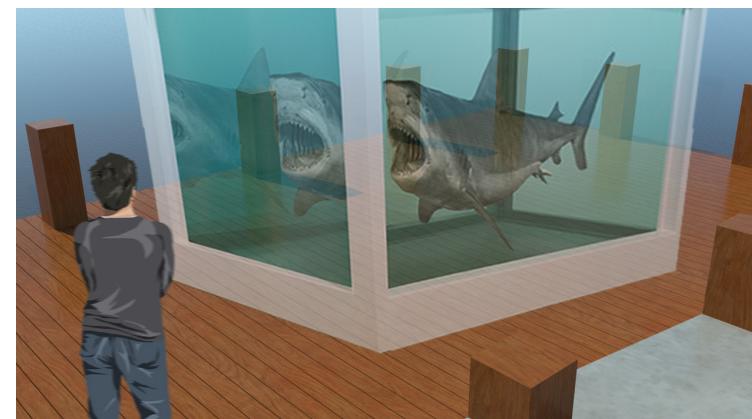
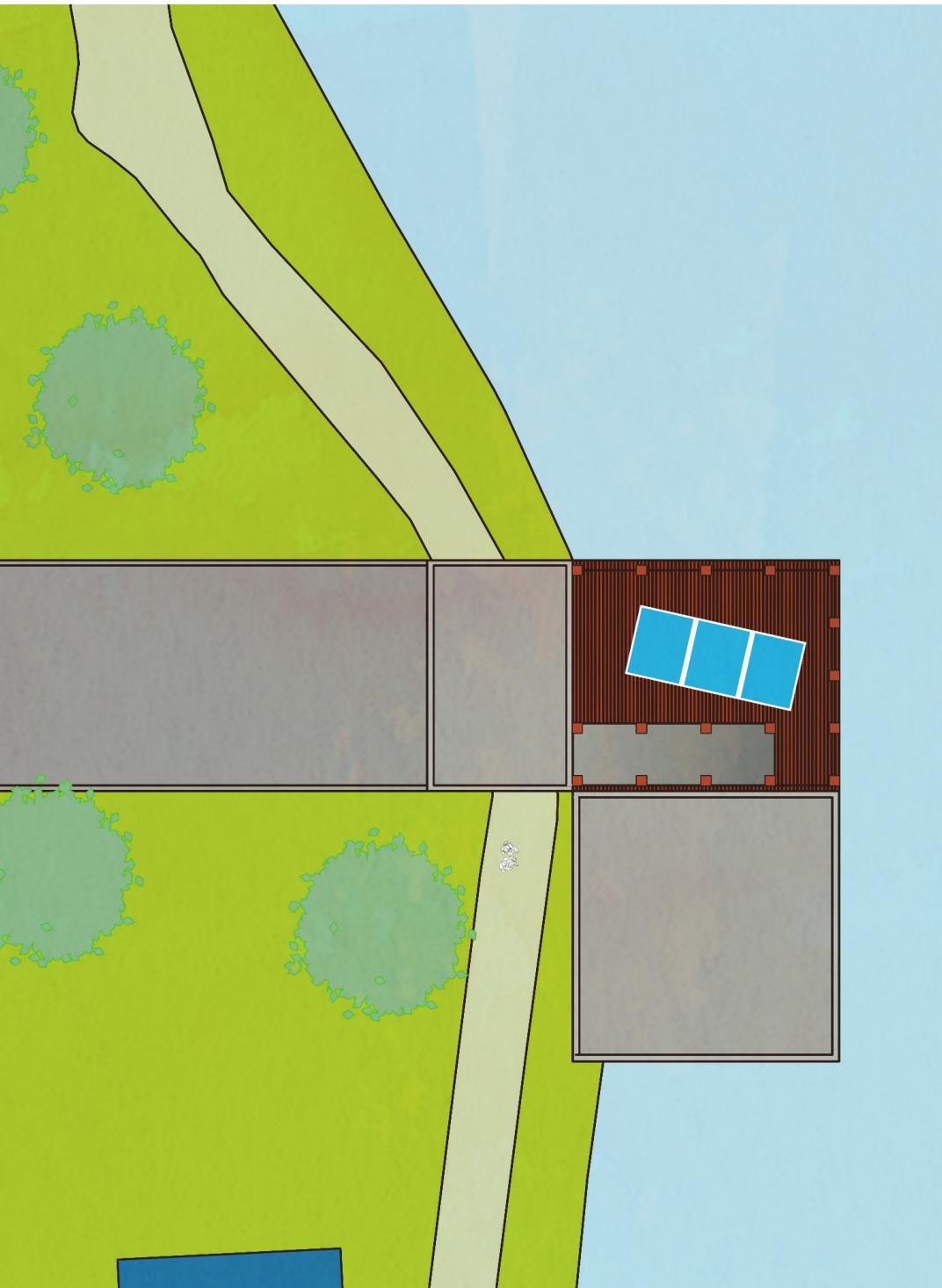


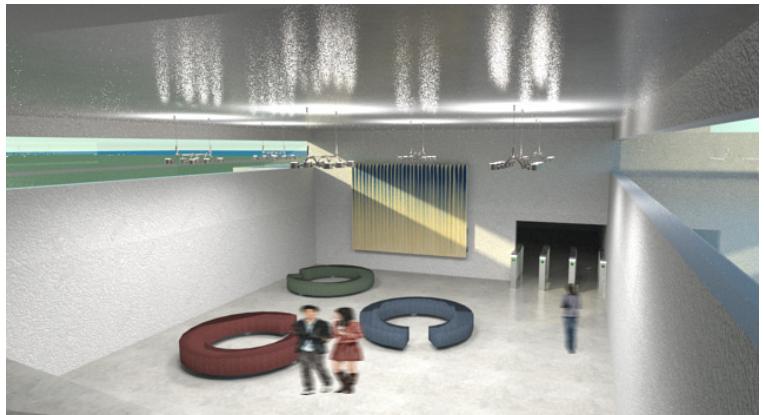


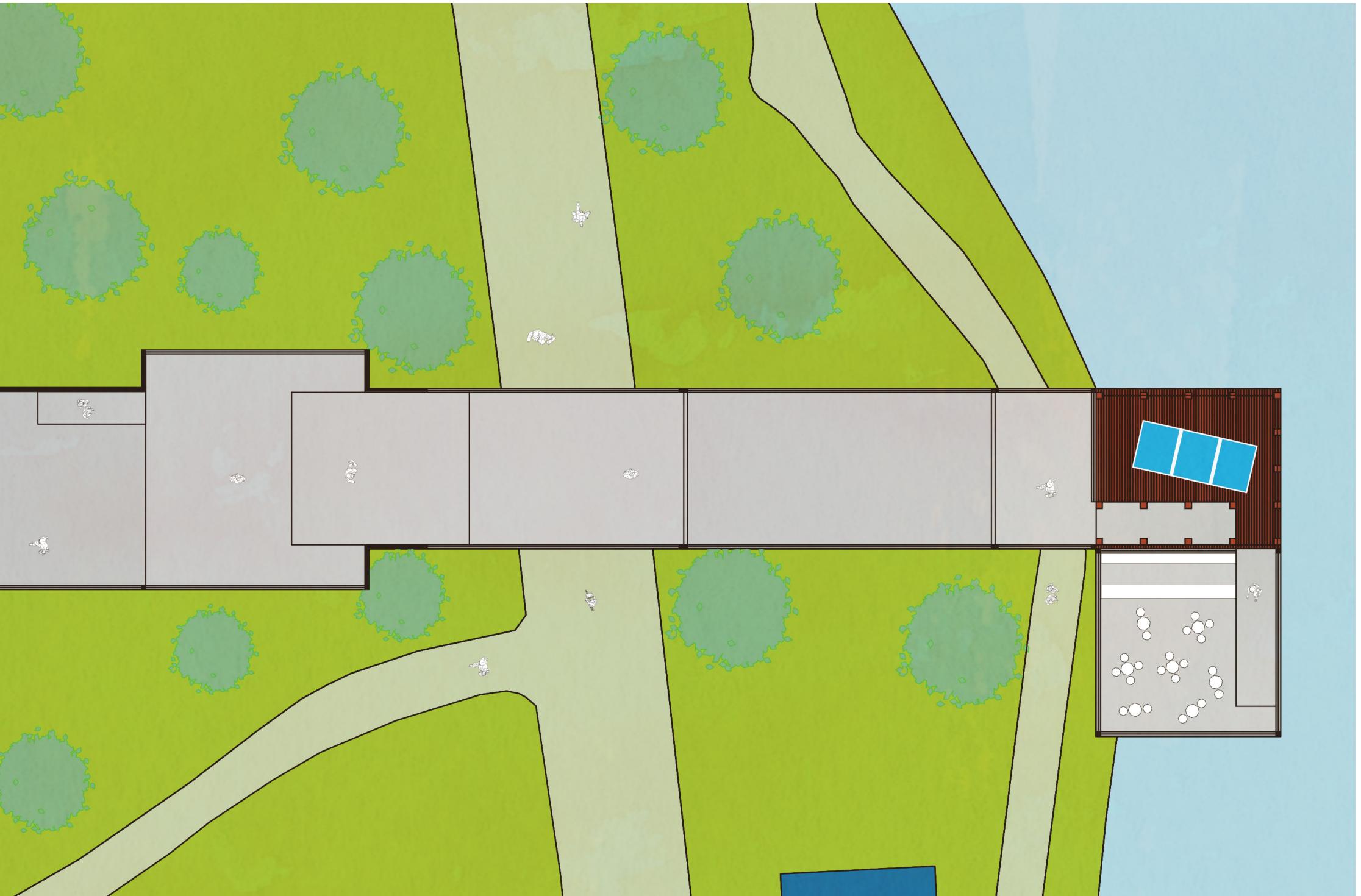










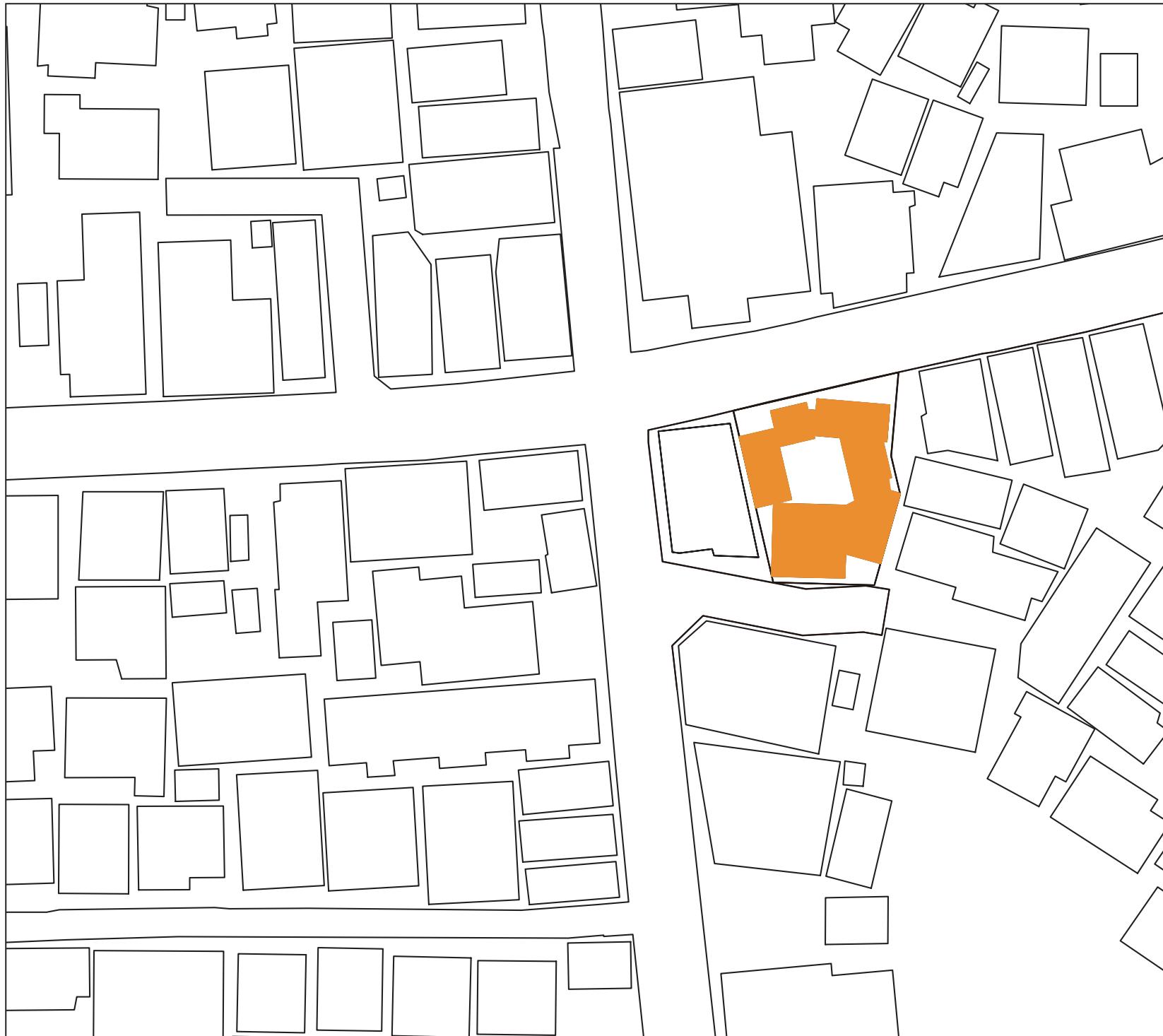






House<sup>3</sup>





### Placedata

Adress: Tokyo  
Katushikaku Knamachi 5  
Lot area: 200m<sup>2</sup>  
Building Coverage: 80%

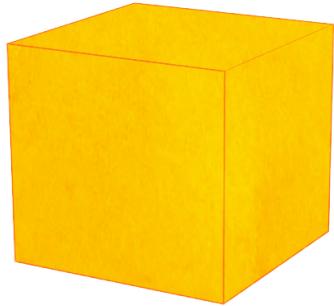
### Family structure

Gorund mother  
Father  
Mother  
Children  
(Elementry school)  
(Nursery school)

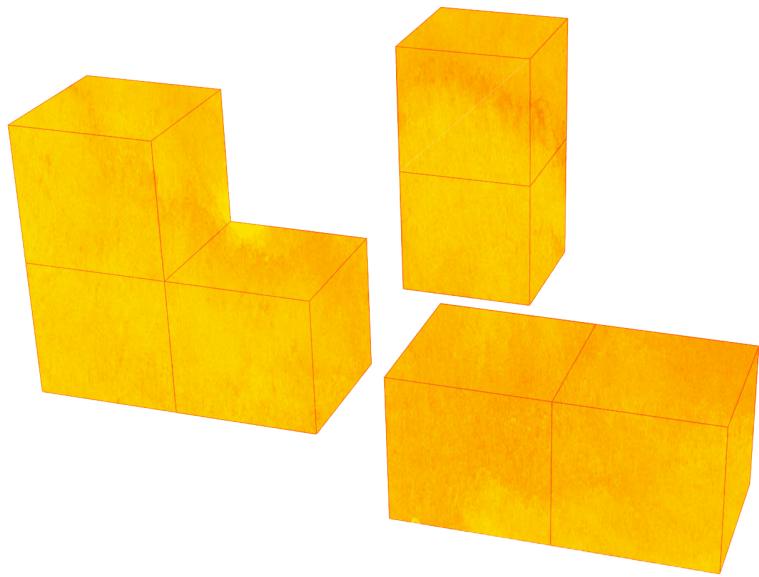
この設計は、葛飾区の金町にある末広商店街に面する敷地に、祖母、共働きの両親、小学一年生と保育園年少の子供を持つ三世帯住宅を設計した。

商店街に面する場所に大きめの和室を作り、そこ縁側をつけるなどしお好み焼き屋を営んでいた祖母のコミュニケーションスペースとした。

また、配置によって中庭を作ることによって、家族の視線が立体的に交差し、誰がどこで何をしているかわかるような住宅となった。



$3 \times 3 \times 3$  のキューブ

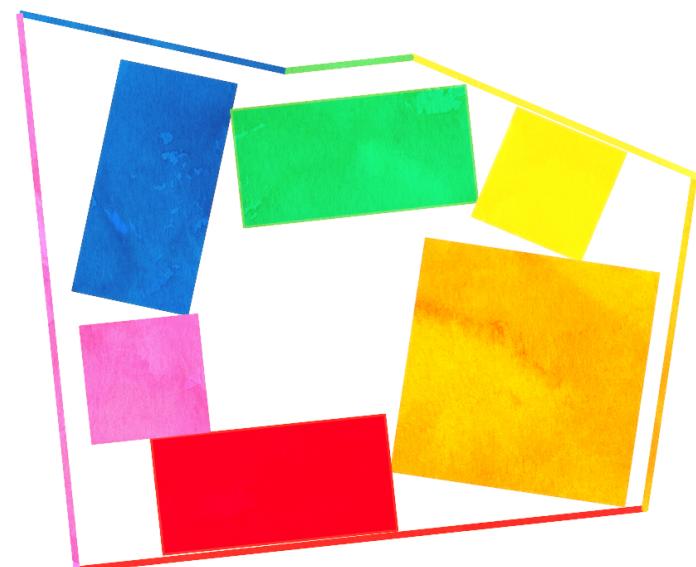


それを重ねたり、並べたりして様々な形を構成する。



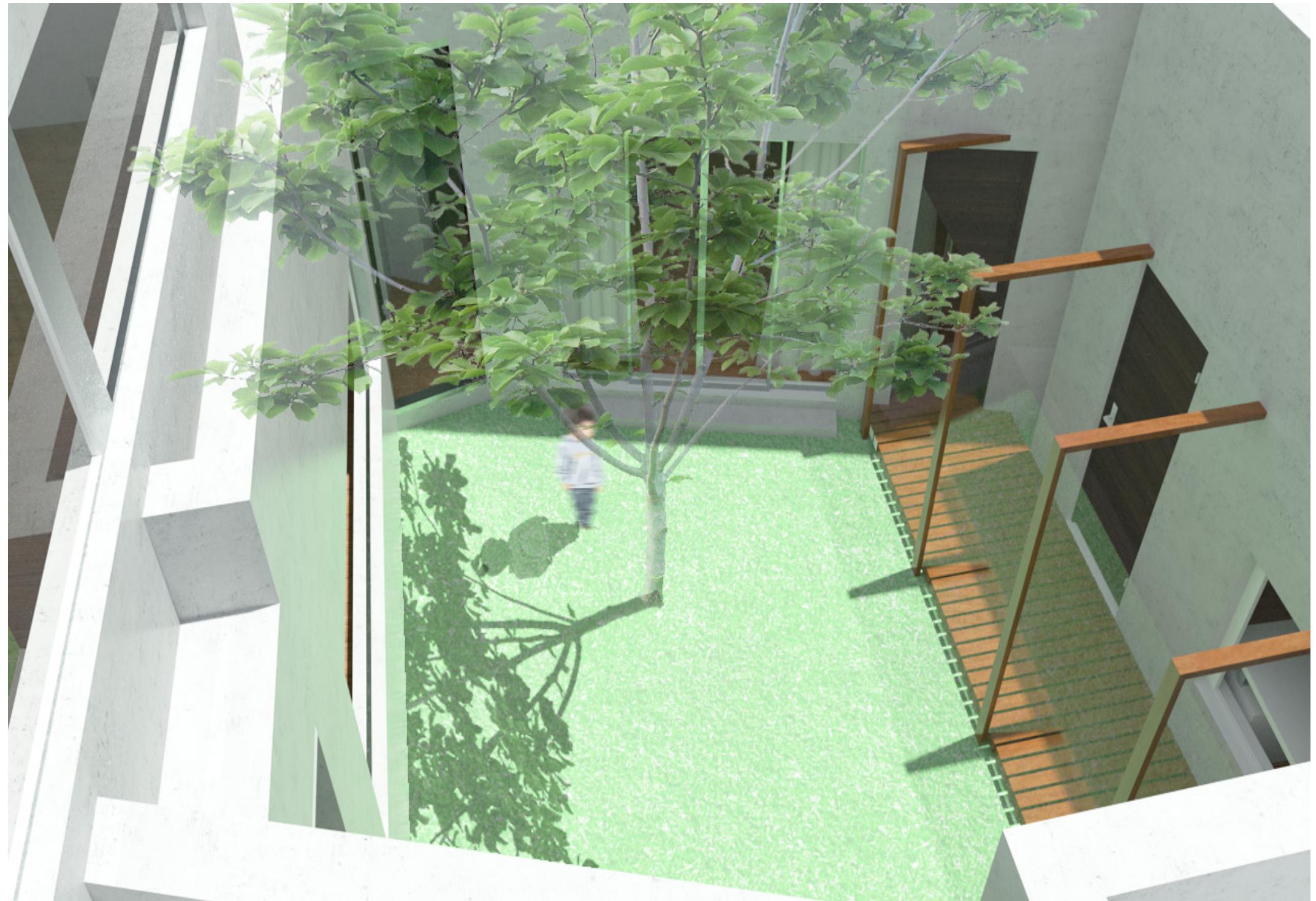
構成した形を意図的、恣意的に様々に配置する。

敷地に合わせる。



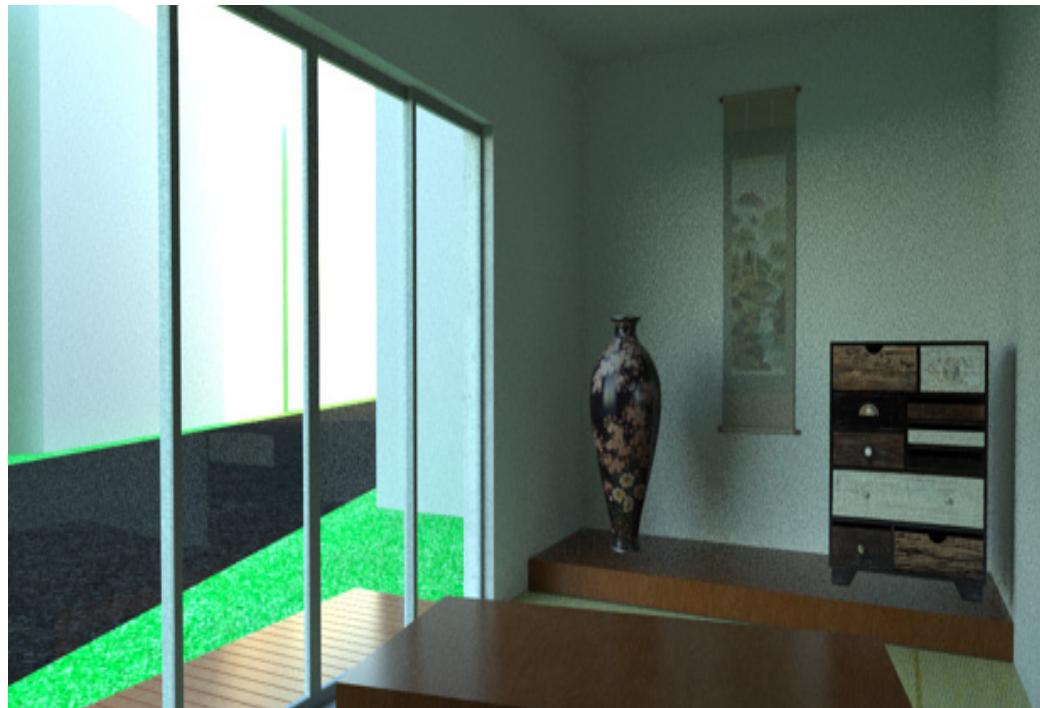




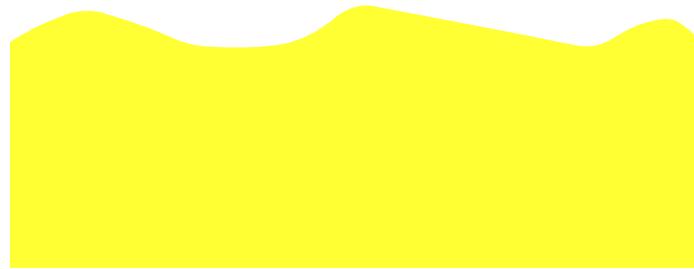
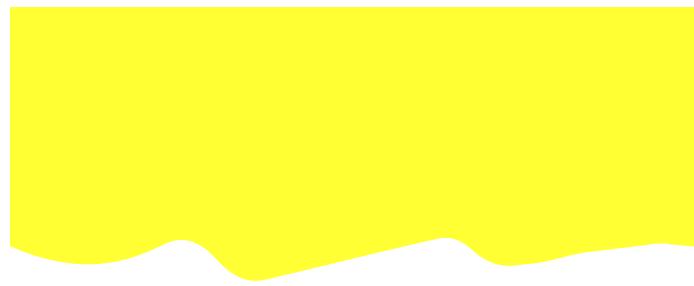






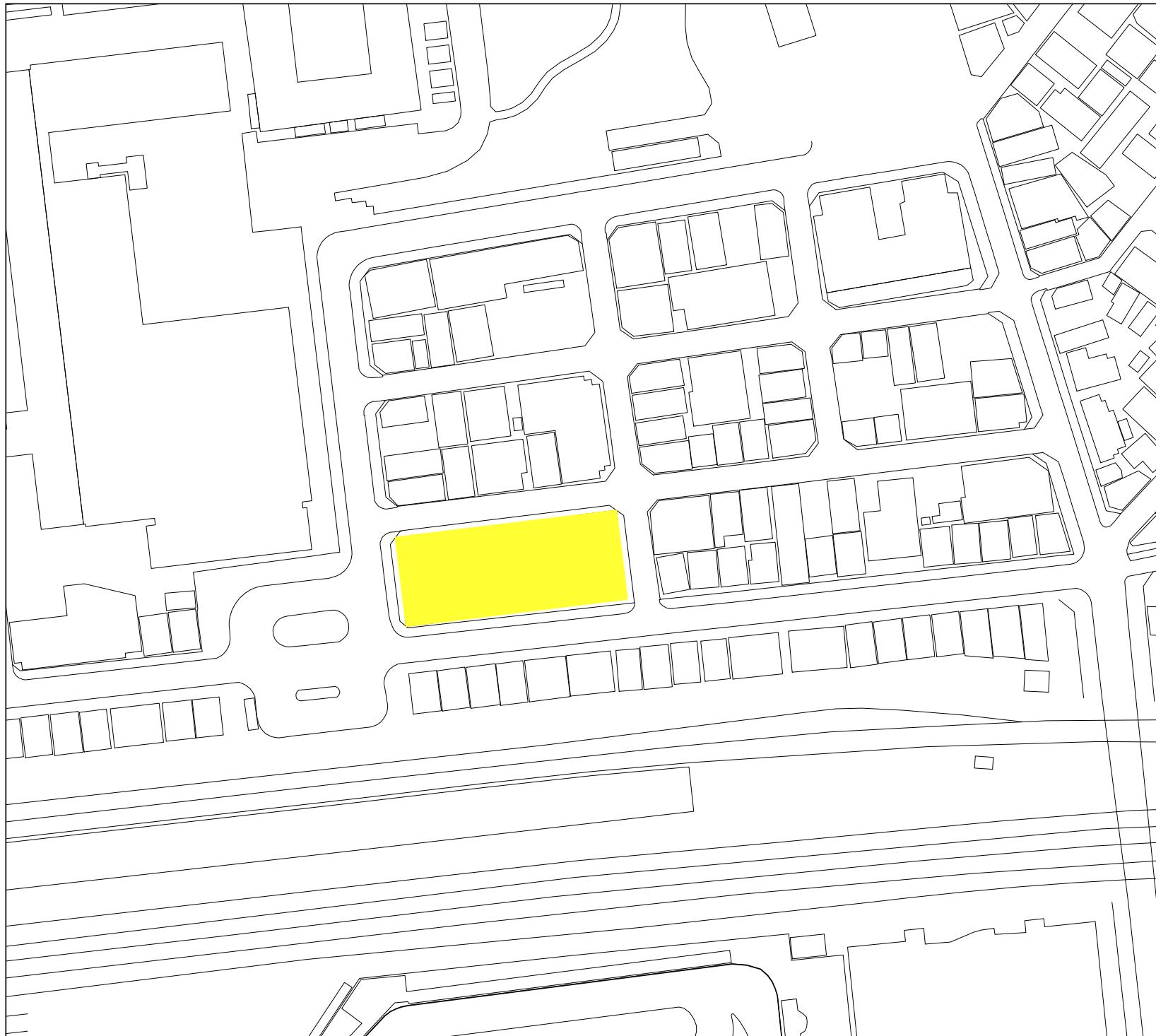






Kanamachi alley





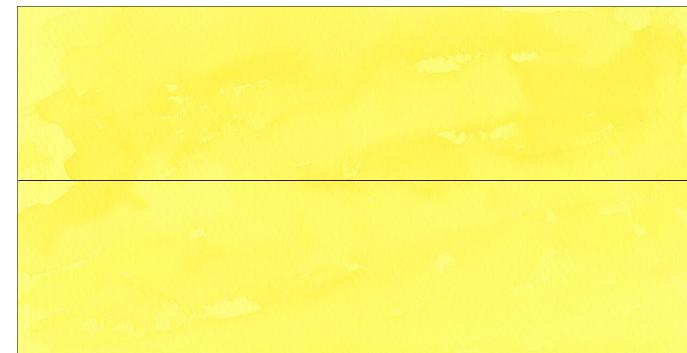
### Placedata

Name: Mizumoto park  
Address: Tokyoto Katsushikaku  
Higashikanamchi 1-43  
Lot area: 1400m<sup>2</sup>  
Floor area ratio: 500%  
Building coverage: 90%

今回の設計では、葛飾区に位置するJR金町駅近くの商業地区に、大型の地域型の公共施設を設計した。この付近は路地が多いので、その中に新たに路地を作り、既存をなぞりつつ新しい金町の形を能わそうと考えた。結果、建物の中の大路地を基準に左右に各施設を入りさせる構造となった。



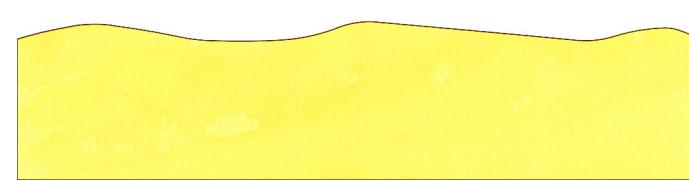
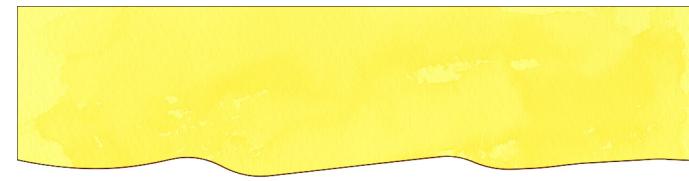
長方形の箱



中央で分ける

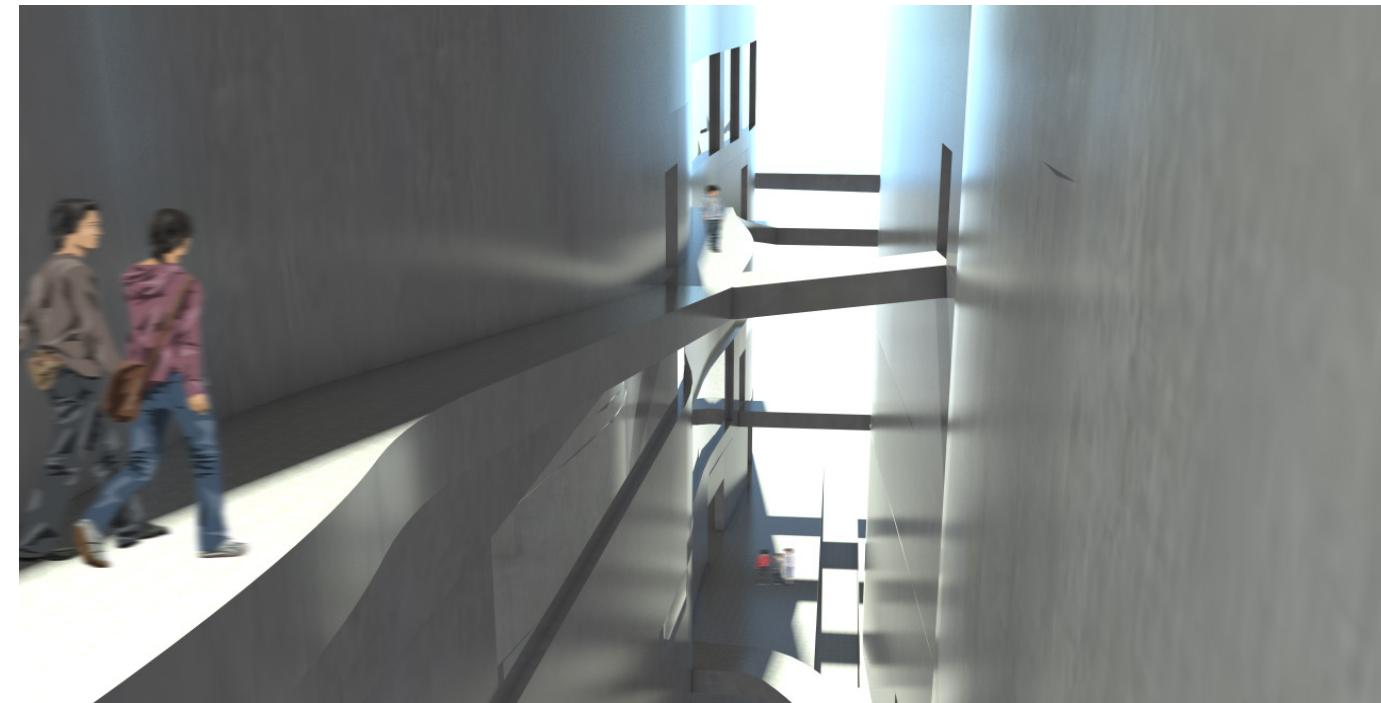


離す

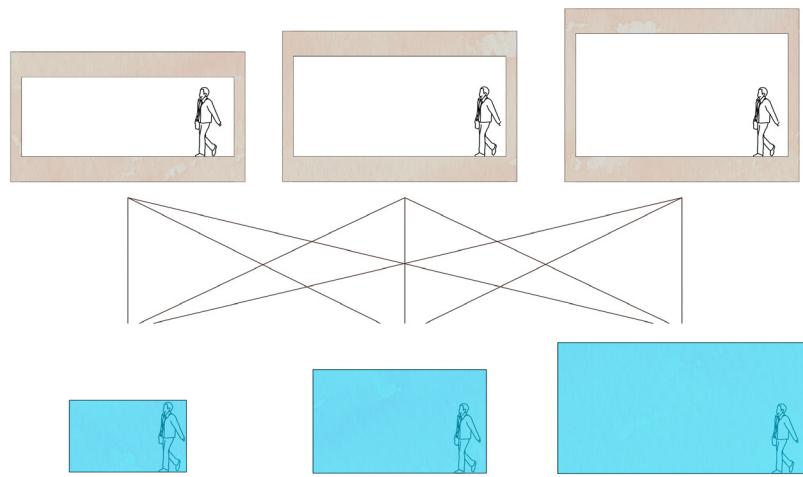


曲げる



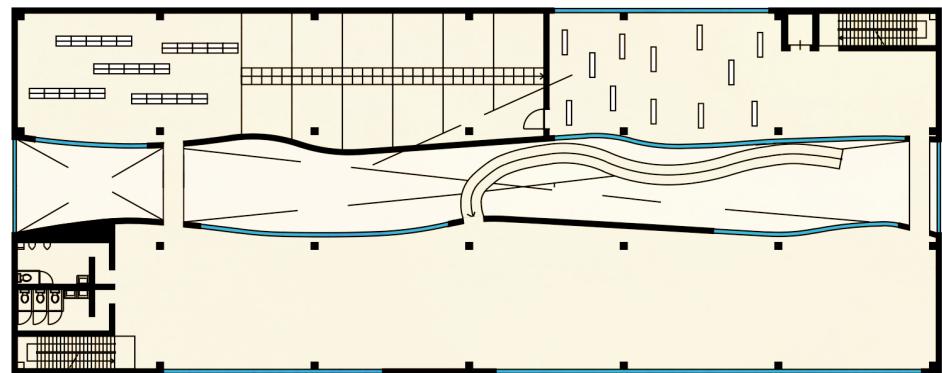
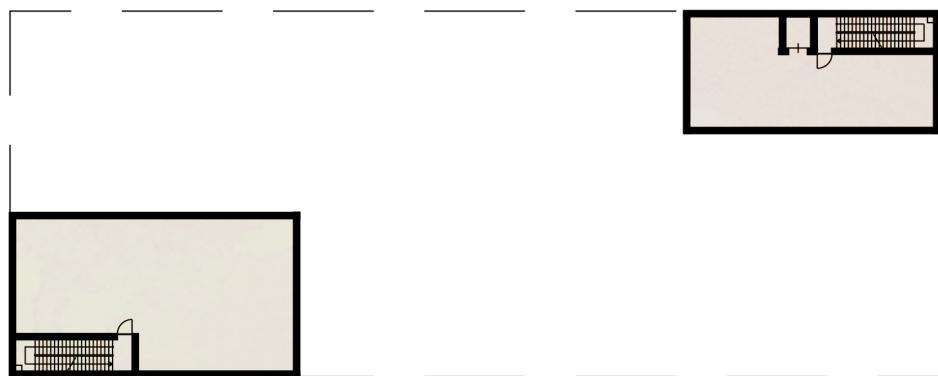
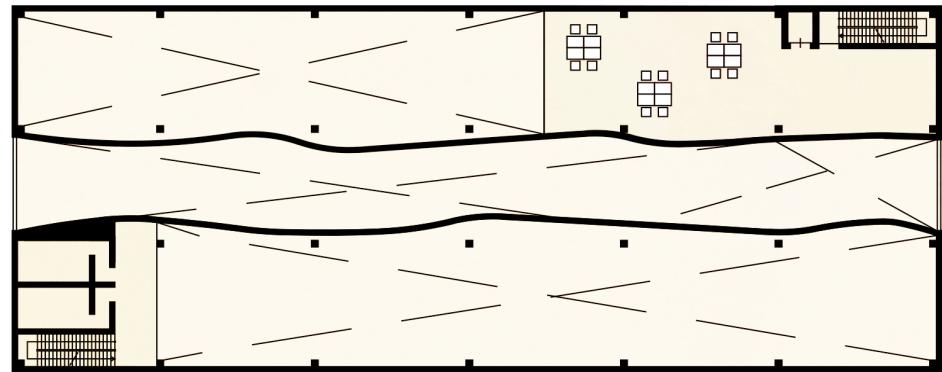
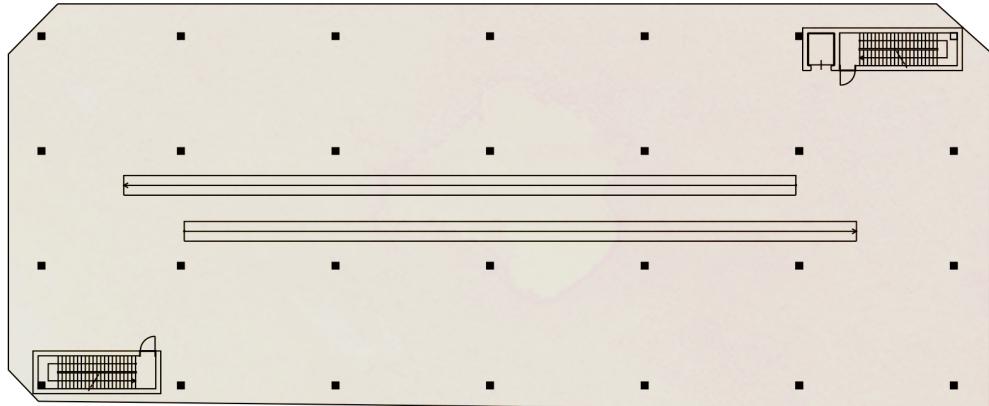


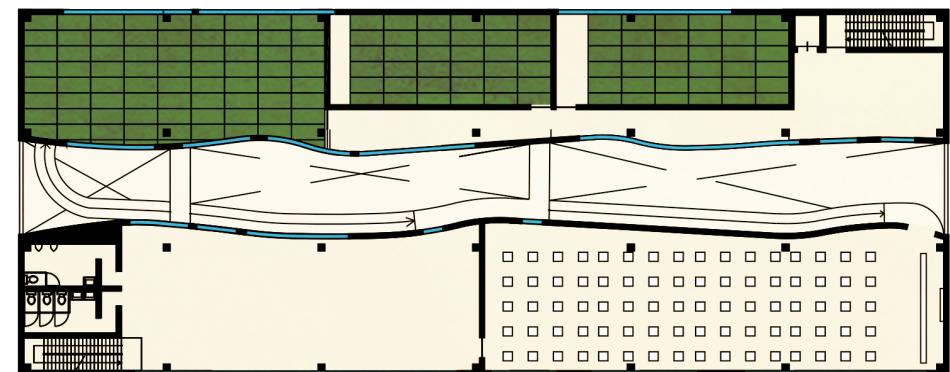
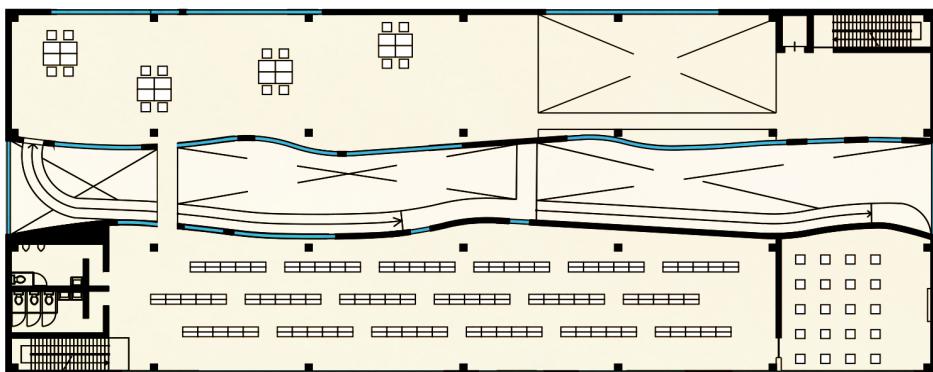
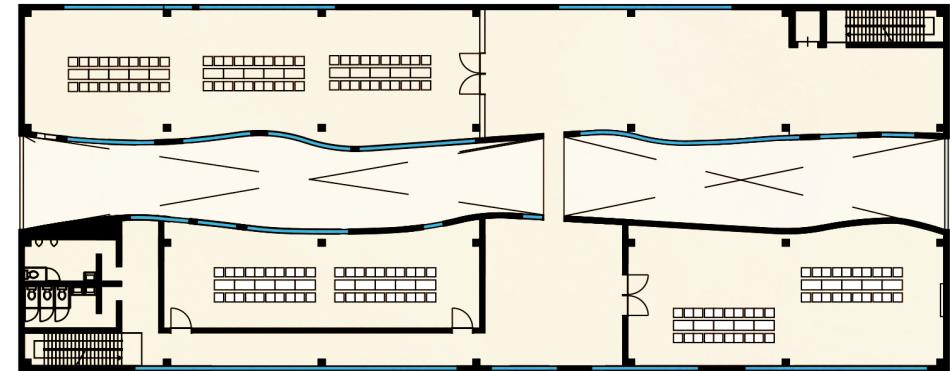
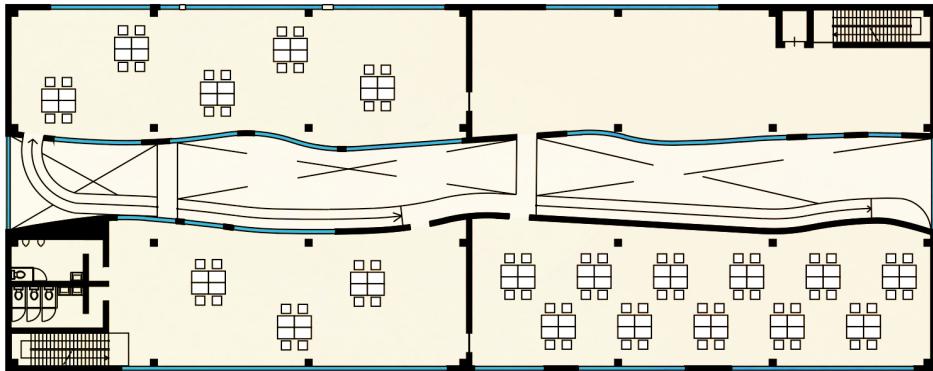




今回、天井高を SML の 3 種類用意し、また開口部も SML3 種類用意した。その 3 種類×3 種類 = 9 パターンの組み合わせにより中央部通路から見た時の部屋の大きさと実際そこへ行った際のギャップを構築した。









To be continued